

会報

[財]日本太鼓連盟

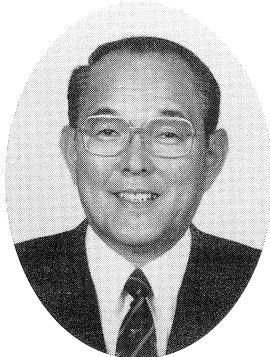
NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2000年1月

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 財団法人日本太鼓連盟

副会長 塩見 和子 Tel.03-3580-9536 Fax.03-3580-8322

◆ 年頭のごあいさつ ◆



財団法人 日本太鼓連盟
会長
吉野和男

新年明けましておめでとうございます。当財団にとっては3年目の春を迎えます。昨年は、会員をはじめとする関係各位のご協力と日本財団のご支援により充実した事業を実施することが出来ました。まず、長年の懸案事項となっていました「会員名簿」をようやく発刊することができました。このことにより、会員の実状把握と情報提供が可能となり太鼓界に対する信頼度がますます高まることが考えられます。また、支部、団体の連絡先が明確にされたことにより、相互間の事務連絡体制が一段と確立されることになりました。

支部につきましては、9月に栃木県が開設し、30支部となりました。日本太鼓の全国大会の中でも初めての開催であった日本太鼓ジュニアコンクール（3月 石川県支部主管）、日本太鼓全国障害者大会（7月 静岡県支部・富岳会主管）は関係者の熱意と努力により多くの観客を集め、大変な好評を博しました。第3回日本太鼓全国フェスティバル（11月 山梨県支部主管）、日本太鼓チャリティコンサート（5月 東京）とともにこれらの大会は、これから太鼓愛好者の増大に結びつくものと期待しております。日本太鼓全国講習会は年3回（2月 京都府支部

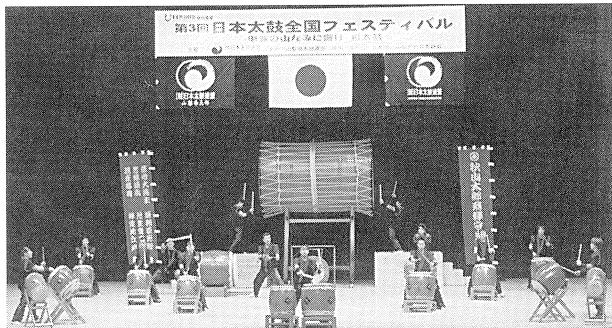
主管、6月 群馬県支部主管、11月 全九州・大分県支部主管）が定着し、受講生の増加とともに公認指導員、技術認定員の資格取得者が多くなっており、海外公演に目を向けて5月から6月にかけてペルー・ボリビア、10月にはブルガリア・トルコ・イランで太鼓演奏を行い日本文化の紹介と友好関係を深めてまいりました。一方、拡大する業務に対応するため職員2名を採用し、事務局体制の充実を図っております。

2000年は20世紀最後の年であり、新たに21世紀に向けての飛躍の年であります。設立から3年目を迎える、財団としての組織基盤は、ほぼ整備されつつあります。当財団といたしましては、今後さらに日本太鼓の普及、発展を図っていくため国内外を問わず多くの太鼓愛好者を視野に入れ、積極的に事業を開拓していくことを主眼として各種施策を推進してまいります。2002年から中学校で和楽器の音楽時間が設定されます。このため、会報8号で記載のとおり、音楽を担当する先生方に対して日本太鼓の周知、啓蒙活動を図っていくことを主眼として各種施策を推進してまいります。併せて同年度までに目標を設定し全国47都道府県の支部開設を目指すこととしております。また、アメリカの支部開設を念頭におき、今年中にアメリカにおいて太鼓講習会を実施するなど友好親善を図りながら話し合いを進めていく企画を考えております。さらに、従来から実施しております事業につきましては、前年度以上の成果をあげるため支部並びに団体との協調連携をさらに強め、努力してまいる所存であります。会員の皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

終わりに、皆様のますますのご健康、ご多幸、ご繁栄を心からご祈念申し上げ、新しい年を迎えての挨拶といたします。

～甲斐のやまなみに くりかえしくりかえし 和太鼓のうねり～

◆ 第3回日本太鼓全国フェスティバルを開催 ◆



(雨鳴太鼓保存会)

『甲斐のやまなみに くりかえしくりかえし 和太鼓のうねり』をテーマにした第3回日本太鼓全国フェスティバルが、11月28日(日)に山梨県甲府市の山梨県立県民文化ホールで約1,500名の観客を集めて盛大に行われました。このフェスティバルは当財団の主催、山梨県太鼓連盟主管で、文化庁のほか、地元の山梨県、山梨県教育委員会、NHK甲府放送局、株式会社山梨日日新聞社、株式会社山梨放送、株式会社テレビ山梨より後援をいただき開催されました。

10時30分に幕が上がり、舞台中央に置かれた関東一の大きさを誇る八尺もの桶胴太鼓（所有：雨鳴太鼓保存会）が、これから行われる太鼓の競演に対する期待を盛り上げました。主催者を代表して塩見副会長、主管者である山梨県太鼓連盟を代表して深沢会長の挨拶に続き、山梨県知事天野 建氏（代理・秋山育彦出納長）と山梨県議会議長山下道男氏からそれぞれ祝辞を頂きました。その後、前述の大太鼓による初っ切り太鼓が深沢会長により行われ、華々しいオープニングとなりました。

全国から32チーム474名が集い、1チーム7分という制限時間をフルに活用し、それぞれ地域の特性と工夫を凝らした個性豊かな演奏を披露しました。出演者たちの白熱したバチさばきに、観客が思わず声援を送る場面もあり、各チームの演奏が終了する度に感動の拍手が会場を埋め尽くしました。観客の中には外国人の姿も多く見られ、日本太鼓人気の高さが伺えました。

最後は、財団役員と山梨県の出演チームが舞台に上がり、深沢会長の音頭による手縋めでフィナーレを飾りました。

山梨県太鼓連盟を始めとする関係各位のご協力により、無事、盛況裡に終了することができました。皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。なお、フェスティバルの模様は、NHK、山梨放送、山梨日日新聞で放送・掲載されました。

去る11月に藍綬褒章を受章されました山梨県太鼓連盟の深沢会長より感想をいただいておりますので、ご紹介いたします。

第3回日本太鼓全国フェスティバルを終えて

山梨県太鼓連盟 会長 深沢 登志男

東京、島根に続き、第3回目の日本太鼓全国フェスティバルが、11月28日甲府市において盛大に開催されました。県内の施設としては最大級の収容人数を誇る山梨県立県民文化ホールの大ホールに於いて、県外チーム21団体、県内チーム11団体が、日頃から鍛え抜いた腕前を披露しました。富士山、八ヶ岳をはじめとする連峰に囲まれた晩秋の甲府盆地の中央で、朗々とリズムを刻んだわけであります。

太鼓という楽器は不思議なものでありますし、ともすればその構造のシンプルさから、叩けば誰にでも演奏できると思われがちです。ところが、実際はさにあらず、叩き方ひとつで表現の幅はいくらでも広がるうえ、仲間と和することによって生じる韻律は、明確な音階を持たぬ打楽器の限界を超えたうねりをもって、人の心を魅了するのであります。和太鼓の「和」とは人の和にほかならず、その人の和が心の琴線をかきならすことにより、感動をもたらすのであります。

ステージ上を見つめてつくづく思うことは、年齢や性別を超えた層の広がりであります。女性や若者の姿がそこにあるだけで感慨を覚える段階はすでに過去となっており、団体を支えるメンバーとして活躍するのが当然となっています。

進行の都合上 7 分間という制限が設けられていたにも関わらず、披露された各団体の演奏は、いずれも地域の風土に根差した力感と躍動感に溢れた素晴らしいものばかりでした。ステージ上から次々と押し寄せる和太鼓のパワーが、観客を魅了したことは疑いもありません。競演の華々しさは勿論のこと、会場を訪れた人々の中に太鼓ファンを確実に増やしたことでも大きな成果であります。



(フィナーレ)

末筆ではありますが、当日ご足労いただいた塩見副会長をはじめとする日本太鼓連盟の皆様の適切なご指導・ご助言をいただいたこと、山梨県太鼓連盟所属の方々に裏方を務めていただけたこと、協賛いただいた人々のご助力、なによりも素晴らしい演奏を披露してくださった方々に深くお礼申し上げ、盛会の報告とさせていただきます。

<出演団体>

●山梨県（11団体） 竜王信玄太鼓保存会、東富士七里太鼓保存会、古関觀音太鼓同好会、甲州ろうあ太鼓、日本航空高等学校、雨鳴太鼓保存会、甲府囃子保存会、紅富士太鼓、鰐沢ばやし保存会、御坂天雷太鼓保存会、大菩薩御光太鼓保存会

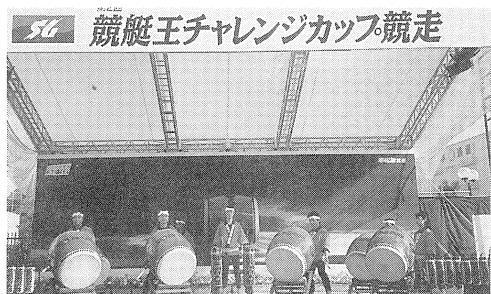
●県外（21団体） 馬淵川 源流太鼓の会（岩手）、米山丸山太鼓（宮城）、蘭導（秋田）、太鼓道場 風の会（山形）、標葉せんだん太鼓保存会（福島）、下野不動太鼓保存会（栃木）、下館若囃太鼓会（茨城）、高崎頼政太鼓（群馬）、花園町小前田上町屋合囃子保存会（埼玉）、重忠太鼓保存会（埼玉）、和太鼓琉翔（千葉）、武藏国府太鼓 韶会（東京）、相模龍王太鼓保存会（神奈川）、分水太鼓（新潟）、のと半島鹿波獅子太鼓（石川）、御諏訪太鼓保存会（長野）、みのわ太鼓保存会（長野）、富岳太鼓（静岡）、岐阜県太鼓連盟合同チーム 山河「清流会」（岐阜）、大和の響き「京」（京都）、さだ須佐太鼓（島根）

◆競艇場で日本太鼓を演奏◆

第2回競艇王チャレンジカップ競走（平和島）

11月23(祝)～28(日)の6日間にわたって平和島競艇場特設ステージにおいて和太鼓の演奏を行いました。レースの合間にもかかわらず、舞台で太鼓のセッティングを始めると観客が集まり出し、演奏が始まると大勢の観客がレース同様に熱中していました。

11月23日(祝) ゆふいん源流太鼓（大分）
 24日(水) 御諏訪太鼓保存会（長野）
 25日(木) 武藏国府太鼓響会（東京）
 26日(金) 太鼓集団 天邪鬼（東京）
 27日(土) 蘭導（秋田）
 28日(日) 御陣乗太鼓保存会（石川）



(武藏国府太鼓響会)

※競艇の収益金が当財団の活動資金となっています。

第14回賞金王決定戦競走（住之江）



(大和の響き「京」)

大阪の住之江競艇場で開催された第14回賞金王決定戦競走において、12月19日(日)・22日(水)・23日(祝)の3日間、前年と同様に太鼓演奏を行いました。厳しい寒さにもかかわらず、大勢の競艇ファンが集まる前で白熱したバチさばきを披露しました。中には、太鼓の片づけまでも真剣に見ていてる人もいて、大盛況のうちに終わりました。

12月19日(日) 大和の響き「京」（京都）
 22日(水) 橘太鼓「響座」（宮崎）
 23日(祝) 富岳太鼓（静岡）

◆'99神宮外苑ロードレースで太鼓2チームが協力◆

12月19日(日) 神宮外苑ロードレース実行委員会(笹川スポーツ財団、東京新聞等で構成)主催による「'99神宮外苑ロードレース」が開催されました。この大会は、日本陸上競技連盟公認であり、健常者と障害者とが一緒になって、参加できるロードレースです。今回は石川県の「手取亢龍太鼓保存会」と神奈川県の「鼓粹」の皆さんにランナーの応援演奏をお願いしました。演奏の合間に、日本財団の曾野会長より出演メンバー一人ひとりに参加メダルが授与され、メンバーは大変感激していました。



(曾野会長と「鼓粹」のメンバー)

◆世界に広がる日本太鼓の人気◆

～ブルガリア・トルコ・イランの三ヵ国で公演～



(テヘランで演奏する橋太鼓「響座」)

この公演は国際交流基金の要請を受け、日本文化の紹介を目的にブルガリア・トルコ・イランの3ヵ国で日本太鼓の演奏を実施することとなりました。

このため、当財団が宮崎県の太鼓チーム橋太鼓「響座」(岩切邦光代表以下5名)を10月11日から30日までの3週間にわたりて派遣、各国の国立オペラ劇場などで公演を行いました。

どの公演も立見が出るほどの観客で埋まり、太鼓の響きと軽快なリズムに熱狂し、アンコールを求める拍手がなかなか止まないという盛況ぶりでした。現地の主催者側も立見まで出るのは初めての経験であると驚いていました。特に、トルコは先の大震災から復興に向けての最中であり、日本からも自衛隊が船でトルコの被災地に仮設住宅を運び込んでいました。そんな中、公演では亡くなられた方々の靈を慰めるため「鎮魂の太鼓」による黙とうを行い、関係者から感謝されました。一方、海外で生活している日本の子供達に日本の伝統文化である日本太鼓を紹介するため、イスタンブール(トルコ)とテヘラン(イラン)の日本人学校で太鼓教室を開き、生徒達や学校関係者から大変喜ばれました。このうち、イスタンブールの日本人学校では太鼓クラブがあり、生徒の半数30名が太鼓に親しんでいます。

今回の公演ではテレビ15社、新聞10社、ラジオ2社の取材があり、中にはNHKテヘラン支局の収録(NHKテレビ及びBS1で11月8日に放映)もあり、また、チームメンバーに多くの観客がサインを求めるなど海外における日本太鼓の人気の高さを確認することができました。

また、本公演で熱演した橋太鼓「響座」のチームの皆さんのが帰国後、トルコの子供たちに太鼓を贈ろうと「トルコ大震災チャリティーコンサート響祭」を2000年1月8日に開催しております。

海外公演の感想

橋太鼓「響座」 岩切 邦光

日本文化紹介事業の一環として、国際交流基金より、財日本太鼓連盟あてに日本太鼓チームの派遣要請があり、我々は連盟の推薦、決定を受け、ブルガリア・トルコ・イランの3ヵ国で公演をしてまいりました。

10月11日からの20日間の道中は、感動の連続でそれぞれのお国柄を肌で感じながらのツアーパンを行いました。

10月12日 ロンドンを経由し、ブルガリアに到着しました。桶胴太鼓が破損している事に荷解きの際に気づき、慌てて修理をするという思わぬアクシデントが発生しました。

10月14日 ソフィア・オペラ劇場での初舞台を控えたりハーサル中に、またもやアクシデントが発生しました。何と、異常乾燥のためか、大太鼓と一尺七寸の長胴太鼓の片皮が破れてしまったのです。しかし、どうにか公演初日を終えることが出来たのは幸いでした。感動したのは、バラの花を手に私たちの後片付けが終わるまでずっと待っていてくれた一人の女性がいたことです。彼女は“サンキュ”と言って、私たち一人ひとりに一本づつバラを手渡して立ち去りました。その時のすがすがしさは、アクシデント続きで病んでいた私たちの気持ちをいっぺんに吹き飛ばしてくれる出来事でした。

そして、トルコ・イスタンブールへ到着しました。そこでもまた、アクシデントが発生しました。イスタンブール行きの飛行機に大太鼓が乗らなかったのです。そこで、ブルガリア日本大使館の方が、トルコ国境まで陸送してくださり、今度はトルコ日本大使館の方と財団の小野常務理事がブルガリア国境まで受け取りに走ってくださいました。そして、やっと公演に間に合いました。

そんなエピソードを抱えて入ったトルコは折りしも、大地震によるダメージから抜け出そうと、その後復興作業の最中でした。

たどり着く先々で歓迎を受けるのは何処も同じでしたが、「被災」のハンディを背負いながらも、見知らぬ私たちの太鼓に耳を傾け、歓喜と歓迎を惜しまないトルコの皆さんの人情は、本当に嬉しく感じました。ご当地では、塩見副会長の発案で、不帰の方々の安らかなご冥福を祈り、被災地の一時も早い

復興を願って、「鎮魂の太鼓」を打たせていただきました。

トルコ滞在の間には、イスタンブール日本人学校を訪問し、同校の太鼓クラブの歓迎を受けました。

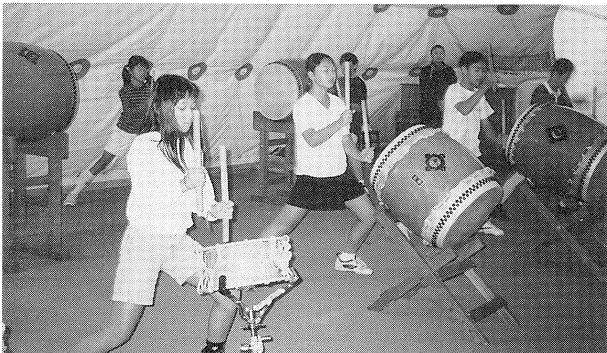
生徒たちの技術レベルは高く、短時間の演奏の中に、バチ一振一振がキラキラ輝いて見えました。感銘させられたのは、彼らが遠い異国の地にあっても「日本人としての誇りと生きがいを忘れていない」ということでした。私は、交わったその時から堂々とした彼らの生きざまを日本の子供たちにも伝えたいと思いました。

トルコの後は、10月26・27日のイラン公演です。イランでは、他国文化紹介が行われることがほとんどないという事でしたが、それだけに私たちの太鼓を通じた文化紹介は珍しかった様子で大歓迎されました。

かくして、イランを最後に全日程を終了し、見るもの、聞くもの、その全てに感動しっぱなしの20日間は終わりました。振り返れば、貴重な経験の連続でした。公演会場には、その国、その国の一級オペラ劇場が用意され、ただそれだけでも身に余る光栄でしたし、大使館の方々のお骨折りと太鼓運搬に国境まで足を運んで頂いた小野常務理事には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、国際交流基金の方々からの道中の気遣い、本当にありがたいことばかりでした。

また、今回の公演を通じて、塩見副会長、小野常務理事のご指導を得ながら、太鼓道の精神をどうやって世界に発信し、後に続く子供たちに受け継いで行くにはどうすればよいのかなど様々な事を学ぶことが出来ました。それと同時に、今回の経験をバネに己のより一層の精進を誓い、日本太鼓の更なる普及と日本伝統の後継者育成に励みたいものと念じました。

橋太鼓響座に世界雄飛のチャンスを与えて頂いた国際交流基金並びに(財)日本太鼓連盟に感謝いたします。



(太鼓を演奏するイスタンブル日本人学校の生徒達)

[派遣メンバー]

橋太鼓「響座」(宮崎県支部)

岩切 邦光(リーダー)、藤村 利和(サブリーダー)、

落合 康宏、松野 力也、松野 二久(敬称略)

財団法人日本太鼓連盟

塩見 和子副会長、小野 翼常務理事

[公演日程]

10月14日(木)	ブルガリア・ソフィア国立オペラ劇場
17日(日)	トルコ・イスタンブル タクシム公園野外ステージ
18日(月)	アタテュルク文化センター
19日(火)	日本人学校
21日(木)	トルコ・アンカラ市内 国立オペラバレエ劇場
22日(金)	土日基金文化センター
26日(火)	イラン・テヘランヴァフダットホール
27日(水)	同上
28日(木)	テヘラン日本人学校

第2回自治大臣杯

日本太鼓ジュニアコンクール開催

前年にひきつづき第2回自治大臣杯日本太鼓ジュニアコンクールが開催されます。全国より選抜された34チームが日頃の練習の成果を競います。出場チームの約半数(16チーム)が予選大会を勝ち抜き、支部代表チームとなっています。本大会の詳細については、下記のとおりです。

日 時 3月19日(日) 11:00~17:30(予定)

会 場 松任市総合運動公園文化体育館
(石川県松任市倉光町941 ☎ 076-276-4844)

主 催 財団法人日本太鼓連盟

主 管 社団法人石川県太鼓連盟

入場料 一般 2,000円(高校生以下無料)

出演団体 (29道府県34チーム)

北海道くしろ蝦夷太鼓ジュニア(北海道)、山口太鼓流
北海若衆太鼓(北海道)、刈和野大綱太鼓(秋田)、高倉ひこばえ太鼓(宮城)、和紙の里和雅美太鼓(福島)、
市貝武者太鼓振興会(栃木)、かやのみ太鼓(群馬)、
高野右吉と秩父社中(埼玉)、のさか太鼓童会(千葉)、
相模龍王太鼓保存会少年部(神奈川)、燕市少年飛燕太鼓(新潟)、越中大島若太鼓(富山)、手取亢龍若鮎組(石川)、
龍青(石川)、大湯鴻乃太鼓若鮎会(石川)、
石川県九谷太鼓保存会(石川)、チビッコ九谷太鼓(石川)、
ハッセ子供太鼓(福井)、日本航空高等学校太鼓隊(山梨)、信濃之国松川響岳太鼓子供会(長野)、天城連峰太鼓(静岡)、
高鷲わらべ太鼓(岐阜)、大和の響き「京」(京都)、るんびに太鼓(大阪)、越部鼓(兵庫)、
掛谷太鼓ジュニア(島根)、善通寺龍神子供太鼓
真魚(香川)、川筋太鼓響学館ジュニア(福岡)、子供不知火太鼓(佐賀)、和道深江太鼓(長崎)、城南火の君太鼓(熊本)、
ゆふいん源流少年隊(大分)、県立五ヶ瀬中等教育学校太鼓クラブ(宮崎)、天孫降臨霧島九面太鼓保存会女子部(鹿児島)

*特別出演

共栄太鼓 風雅(石川)(前年度優勝チーム)

彌栄太鼓(石川)

加賀虫送り太鼓(石川)

(金沢百萬石・辰巳こんころ太鼓・手取亢龍太鼓)

ゆふいん源流太鼓(大分)

◆ 第6回日本太鼓全国講習会 ◆ ～大分県・湯布院で開催～



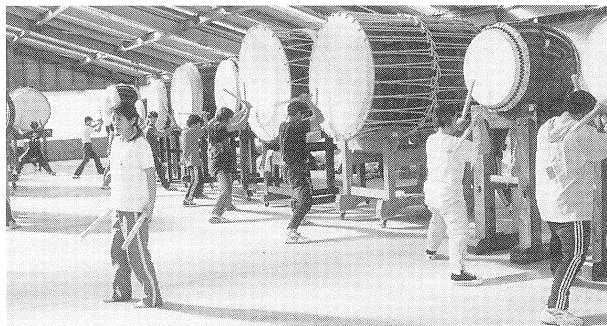
(5級基本講座の講習風景)

第6回日本太鼓全国講習会が11月13(土)・14(日)の両日、大分県湯布院町の町立スポーツセンター及び県立湯布院青年の家を利用して行われました。

今回は、全九州太鼓連合、大分県太鼓連合が主管となり行われたもので、全九州太鼓連合の長谷川会長をはじめとする会員の皆さんの熱意と努力に、心から感謝申し上げます。

講習会には地元、大分県をはじめとする九州各県はもとより石川、静岡から約300名の受講者が参加しました。

開講式には、財団を代表して塩見副会長を始め、主管団体の全九州太鼓連合から長谷川会長、そして湯布院町町長はじめとする来賓の方々からそれぞれ挨拶がありました。式典の後、恒例の講師による模範演奏が行われ、熟練されたバチさばきに受講生は聴き入っていました。



(太鼓講座)

午後からは、2ヵ所に分かれ、締太鼓講座に時勝矢一路氏、笛講座に狩野泰一氏に特別講師として来ていただき、各6講座の講師による厳しい指導が開始されました。

翌2日目は、朝の集いから始まり、講座も順調に進みました。成果発表では4つの専門講座で技術を習得した受講生による演奏が行われ、その上達ぶりを披露しました。

閉講式は、小野常務理事に続き、大分県太鼓連合の河野会長が挨拶をし、無事終了しました。

* 専門講座

大江戸助六太鼓講座 (講師・小林 正道氏)

大太鼓講座 (講師・渡辺 洋一氏)

締太鼓講座 (講師・時勝矢一路氏)

笛講座 (講師・狩野 泰一氏)

* 基本講座

4級基本講座 (講師・松枝 明美氏)

5級基本講座 (講師・古屋 邦夫氏)

午後は希望者による技術認定員試験 (学科・実技) が行われ、結果は次の通りです。

4級検定 14名受験 14名合格

5級検定 151名受験 151名合格

* 技術認定員現在数は次頁を参照

ここで、主管の全九州太鼓連合の長谷川会長と長崎県から講習会に参加された受講者の方から感想をいただいているので、ご紹介いたします。

第6回日本太鼓全国講習会を主管して

全九州太鼓連合 会長 長谷川 義

九州での日本太鼓全国講習会開催は、第2回の鹿児島県に続き2回目となりました。鹿児島での成功を見て、今回の大分県開催は、より以上の成果を上げなければとの思いで、九州各県の役員と共に幾度となく会議を重ねてまいりました。

全国各地の講習会を見て、それをそのまま持つてきてもどうかと思い、全九州太鼓連合らしい講習会にしたいとの思いから、事務局の方々にも多々ご心配やご迷惑をおかけただろうと反省する次第です。

しかし、これは全九州太鼓連合の会員の要望であり、会長としては会員の希望にそった講習会を実施するのが私の努めだと思っております。今回も、鹿児島県で実動したメンバーの協力の下で会議を進め、鹿児島県での問題点なども考慮に入れ進めてまいりました。実際自分達が現場に立ってみると色々と大変で、皆様にご迷惑をかけたのではないかと思います。しかし、鹿児島県での実績を大分県に活かし、大分県の実績を次回(5月)の熊本県で参考に出来ると言うのは全九州の強みではないかと思います。

講師として来て頂いた諸先生方、また私の長年の付き合いから特別に時間を割いてお越しくださいました先生に心より感謝とお礼を申し上げます。

次回の熊本県山鹿市の講習会も全九州太鼓連合が総力を挙げて取り組む所存でありますので、よろしくお願ひいたします。

第6回日本太鼓全国講習会に参加して

社会福祉法人 おさなご園
保母 太田 千恵

会場に入ってすぐ、参加者の多さに驚きました。5級基本講座を受講する者は、私を含めて151名おり、年配の方もいれば小学生の子供たちもいると言うように幅広く様々でした。周囲を見ると誰もが真剣な目つきで叩いていました。“太鼓が好きだ”という気持ちがどんどん伝わってきました。それに比べて私はしなければいけないから、という理由で太鼓を叩き始め、今回の講習会に行くようにいわれて参加しました。太鼓に対する気持ちが、根本的なところから違っていました。とりあえず迷惑がかからないように、流れだけはマスターしようというような考え方で叩いてきました。今までとともに練習したことのない私にとって、5時間近くも太鼓を叩き続けることは本当に辛いことでした。何度もくじけそうになり、なんでこんなにまでして叩かなければいけないのだろうかと思いました。しかし、それ以上に先生方のいわれるリズムで叩けないこと、進むペースについていけないことの方が悔しくて、いつ

のまにか夢中になって太鼓を叩いていました。

気持ちばかりが先走って手は追いつかず、頭の中はリズムがごちゃごちゃでパニックになりそうな時、隣で叩いていた女の人が声を掛けて下さいました。「進むペースが早くついていけませんね。頑張りましょう。」私はこの一言で張り詰めていた糸が一気に切れたかのように気持ちがとても楽になりました。私だけが出来ないんじゃない、きついんじゃない、そう思ったら、しなければいけないからとか義務的ではなく、自分のために叩いてみようと前向きに考えられるようになりました。

試験では、一度に10名が叩くのですがとても緊張して、周りの状況も自分がどんな風に叩いていたのかさえもよく覚えていません。しかし、実技・筆記ともクリアして、無事に合格できた時は、本当に嬉しかったです。今でもその時の喜びは忘れられません。

今回の講習会で学んだことは、私にとても大きな影響を与えてくれました。技術面に限らず太鼓を叩くことそのものを楽しいと感じられるようになったことが一番嬉しいです。まだ自分の叩く太鼓に自信は持てませんが、少しでもうまく叩けるようになりたいと今は思っています。

全国で初めての支部講習会を長野県で開催

12月11日(土)・12日(日)の両日、全国で初めての支部講習会が長野県太鼓連盟主催により長野県穂高市の泉郷プラザホテルにおいて、開催されました。講座は、4級・5級基本講座と銚子はね太鼓が専門講座として設けられ、約110名の受講生が参加しました。午後からは、希望者による技術認定試験（学科・実技）が行われました。

結果は次の通りです。

4級検定 29名受験 29名合格

5級検定 77名受験 77名合格



(地区講習会)

第7回日本太鼓全国講習会開催の御案内

主 催 (財)日本太鼓連盟

主 管 静岡県太鼓連盟

期 日 2月26日(土)・27日(日)

会 場 静岡県・本川根町民文化会館

専門講座

大江戸助六太鼓講座（単式单打）小林 正道氏（東京）

八丈太鼓講座 （単式複打）菊池 修氏（東京）

秩父屋台囃子講座 （複式複打）高野 右吉氏（埼玉）

基本講座

3級基本講座 松枝 明美氏（1級公認指導員）

4級基本講座 鈴木 孝喜氏（1級公認指導員）

5級基本講座 古屋 邦夫氏（1級公認指導員）

受講料 大人 10,000円（会員9,000円）高校生以上

子供 5,000円（会員4,500円）

1日参加は、一律5,000円となります。

申込締切日 2月13日（当日到着分まで有効）

申込先：静岡県太鼓連盟講習会事務局

TEL. 0547-59-3106 FAX. 0547-59-3293

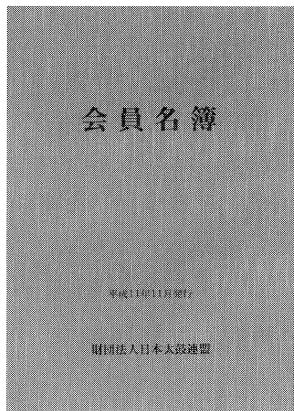
技術認定員数は次の通りです。(1999年12月31日現在)

総数 962名（1級2名、2級13名、3級34名、
4級119名、5級794名）

事務局だより

会員名簿を発刊

このたび、会員名簿が完成しました。すでに各団体あてに送付済みですが、希望者には一冊1,500円（郵送料込み）でお分けしておりますので、ご希望の方は事務局までお申込下さい。



当面の主催事業予定（2000年4月～）

- ・5月12日(金) 日本太鼓チャリティーコンサート(東京・草月ホール)
- ・5月27日(土)・28日(日) 第8回日本太鼓全国講習会(熊本県山鹿市)
- ・6月17日(土) 第2回日本太鼓全国障害者大会(静岡県御殿場市)
- ・7月30日(土) 第4回日本太鼓全国フェスティバル(東京・渋谷公会堂)

2000年4月以降の事業に対する 日本太鼓助成金交付申請を受付け中

2000年度の日本太鼓助成金交付申請を受付け中です。希望団体は早急に書類を整え、2月末日までに当財団宛に申請を行って下さい。

各地のたより

水戸太鼓メンバーが ポスター モデルに

水戸太鼓保存会のメンバーが、99年秋季全国火災予防運動のポスター モデルに選ばれました。ポスターは、水戸市内に配布されました。



各地のイベント

- ・2月6日(日) 静岡県太鼓まつり
主催：静岡県太鼓連盟・静岡県藤岡市民会場
- ・2月13日(日) 第9回檜の祭典
主催：埼玉県太鼓連盟・埼玉県花園コミュニティーセンター
- ・3月26日(日) 東北太鼓交歓演奏交流会
主催：東北太鼓連絡協議会・岩手県一関ダイヤモンドパレス

東京・葛飾諏訪太鼓がメキシコで公演

私たちのメンバーの一人が幼少期をメキシコで過ごした関係で、メキシコ在住の日本人エッセイスト辰島かりさんからメキシコでの太鼓公演の提案を受けたのがきっかけとなり実現しました。

メンバー8人による本公演の最初は、クエルナバカのコルテス宮殿（現在は博物館となっている）の前で披露。終了後は新聞やテレビの取材など色々な方々との交流親善を行い、多くの皆さんによかったと言って頂けて大変嬉しい思い出になりました。

その後のクアウトロ、メキシコシティーでの公演も大成功に終わりました。

歴史と伝統に彩られたメキシコにおいて、かつて経験した事のない喜びを感じながら私たちは日本太鼓を演奏することが出来ました。

